

小金井市農業振興計画（案）に対する意見及び検討結果について

意見募集期間：令和3年12月27日から令和4年1月26日まで

意見提出数：2人・11件

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
1	基本施策5 「農」あるまちづくり	地域交流の核となるイベント開催や交流に関して記載があることはとても良いと思います 5-3 農商・農福・農学連携の促進の部分で主な取り組みとして「●学校教育、市内・近郊の大学や専門学校との連携（新規）」は今後コミュニティースクールや地域学校協働との連携。児童館や公民館など学校教育。社会教育リソースとの連携を具体的にどう進めるのか、具体策を落とし込んで推進して欲しいと思います。	農業以外のさまざまな業種との連携は、今後の農業振興を図る上で重要な取組の一つになるものと認識しております。農学連携を促進する上で学校教育、大学、専門学校及び学生等、教育分野におけるさまざまな対象との連携が想定されますが、対象によって連携する目的やアプローチ方法等が異なり、また、さまざまな連携を通して、そこから新たな連携のアイデアも生まれてくること等が考えられます。 そのため、本計画では、あえて具体策を記載していませんが、今後事業を推進する中でさまざまな連携の可能性を模索してまいります。
2	基本施策5 「農」あるまちづくり	「●学生の参画機会の拡充（新規）」についても市内の大学のサークルやボランティアセンターに実際に足を運んで連携が必要です。その意味でも「社会教育」的な観点から連携を進めて欲しいですし、社会教育の観点から農業が大変有効なリソースであり強みがあることをもっとアピールして欲しいですし、教育分野にもっと積極的に行政としてコラボに關与して欲しいと思います。	いただいたご意見のとおり、学生の参画機会の拡充を行う上で教育機関等との連携は必要になるものと考えます。行政の関わり方については、事業を推進する上で個別に検討していく内容となりますので、いただいたご意見につきましては、農学連携の促進に向けて取り組む際の参考にさせていただきます。

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
3	基本施策2 農地の保全・活用  基本施策5 「農」あるまちづくり	<p>現在は有志の農業者の皆さんの「心意気」で実施されているケースが多く、実施してもしなくてもモチベーションには関係ないのではないのでしょうか。</p> <p>そこで「2-1 農業関連法制度の周知・活用促進」と絡めて、地域連携や交流を行っているケースを「得点化」して一定の実績のある農業者には、優遇措置を何らかの形で設けることは出来ないのでしょうか。実績の写真付き報告書とコラボ相手のコメントを記入したものを証憑として優遇措置を図るモノです。</p>	<p>「農」とふれあう機会の創出に向けた地域連携及び交流を行う農業者のモチベーション向上を目的とした支援についてのご提案をありがとうございます。</p> <p>本計画では、基本施策5-1「ふれあい農業の推進」において、「農」や食に関連するさまざまなイベントや交流機会の開催に対する支援を掲げており、地域連携等を行う農業者やさまざまな連携主体に対して支援することとしています。</p> <p>いただいたご意見につきましては、実績の評価指標、優遇措置の内容及び得点化することの影響等、個別に検討が必要な内容となりますので、今後事業を検討していく際の参考にさせていただきます。</p>
4	基本施策5 「農」あるまちづくり	<p>都市型農業がまちづくり・ひとづくり・交流にもっと参加する良いアイデアの目があるので、是非とも心ある農業者の皆さんが報われる仕組みを作ってください。</p>	<p>ご意見をありがとうございます。本計画の基本施策5において、さまざまな業種との連携・協力関係の構築に向けた取組を進めていくこととしています。そうした取組を通じて、多様な分野のさまざまな方が関わることで、農業分野からの視点とは異なるアイデアが出てくることも期待されます。</p> <p>また、市内には、地域交流等に積極的な農業者がいる一方で、農業生産に重点を置いて取り組まれている農業者もいます。そのため、本計画では、そうした意欲的に取り組むすべての農業者の皆様の努力が報われる仕組みづくりの実現に向けて、「農」あるまちづくりの推進を図ってまいります。</p>

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
5	基本施策5 「農」あるまちづくり	コロナ後は畑と食べ物・たき火などイベントとして畑をフィールドにした交流イベントも農業者に丸投げせず地域地域で回数を多く実施するためにも、農業分野だけでがんばらないでJCや商工会・地域の子ども会との交流をもっと行い「実績」を上げるようにコーディネーターも欲しいところです。市内に団体がいくつかあるので企画してみるのはいかがでしょうか。	<p>イベント等を実施する際の農業分野だけで頑張らない仕組みづくりや企画についてのご提案をありがとうございます。</p> <p>現在、市内では、道草市等の農業分野だけでなく観光・商業・福祉等のさまざまな分野の団体等による連携の取組が行われています。</p> <p>こうした取組を広げていき、また、継続的な取組としていくための仕組みや環境づくりは、個別に検討が必要な内容となりますので、いただいたご意見につきましては、今後の事業を検討していく際の参考にさせていただきます。</p>
6	基本施策5 「農」あるまちづくり	大切なのは、大きな1年に1回のイベントではなく、なるべく町会単位で年に数回？可能なら毎月地位なくていいからご近所交流イベントがあるとまちづくりや農業理解促進が進むと思います。	<p>いただいたご意見のとおり、年間の交流機会の回数を多く積み重ねていくことは、農業理解を促進する上で重要な取組の一つと考えます。</p> <p>市内で年に数回実施されている地域単位の取組としては、道草市やこがね市等があります。こうした取組が継続的かつ様々な地域で展開されることにより、各地域における農業理解の促進につながるものと考えます。</p> <p>一方、年に1回の大きなイベントにつきましても、他分野との連携や各地域で展開されている取組をつなぎ合わせる場、市内の農に関する取組・情報を広く周知すること等への活用が期待されます。また、農業祭で行われている農業振興品評会は、市内農業者の生産技術を競い合うものであり、農業者の生産意欲の向上や市内で生産されている農産物を知っていただく機会ともなり、地域単位で行うイベントとは異なる側面からの農業理解の促進や農業振興に資するものとなりますので、どちらも必要な取組であると考えています。</p>

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
7	基本施策1 担い手の確保  基本施策2 農地の保全・活用	日本の食料自給率は低く、食料を輸入に頼っているが、輸出国が輸出を停止（ベトナムとインドが一時的に米輸出を停止）したり、輸送などの関係で輸入できない（フライドポテトの事例）などが起きている。これらのことは食料を輸入に頼ることの危険性を明らかにした。農地を保全し、農業の担い手を増やすことは食料を確保する上で非常に重要なことだ。都市農業もその位置づけに入るべきだと思う。	ご意見をありがとうございます。都市農業に期待される機能の一つとして、地域の食料をつくるはたらきとしての「地産地消」があります。また、食の確保は、持続可能なまちづくりの観点からも重要となります。 そのため、本計画6ページ「⑤持続可能なまちづくりへの関心の高まり」にて本計画の姿勢を示すとともに、担い手の確保及び農地の保全につきましては、基本施策1及び2にて取り組むこととしています。
8	基本施策2 農地の保全・活用	近くに農地があつて作物を栽培していれば、災害が起きた時にとっても助かると思う。	都市農地に期待される機能の一つとして、災害時における食料の供給や避難場所としての機能があります。 小金井市では、「災害時における農地の活用及び生鮮食料品の調達に関する協定」を市と東京むさし農業協同組合が締結し、災害時における包括的な内容についての取り決めを行っているものの、個別の農地を防災協力農地として登録する等の具体的な施策を実施するまでには至っておらず、課題と認識しているところです。 また、日頃の農地との関わり等が無い場合には、農地を避難場所としてイメージできない等、災害時の活用につながらない可能性が考えられます。 そのため、本計画では、基本施策第2-3「多面的機能の理解促進」において、さまざまな「農」の交流機会を通じて、農地の持つ機能の更なる発揮に向けた取組の検討・支援を行い、農地の保全・活用に努めてまいります。

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
9	基本施策1 担い手の確保  基本施策3 安定した農業経営の確立  基本施策4 地産地消の拡充	<p>計画の中でも担い手の確保が最初にあげられているが、担い手が増えない理由の一つは、収入だと思う。ブラジルでは給食食材の30%を近くの家族経営の農家から購入するという政策を前政権が始め、今も継続されているという。その結果農家の収入が増えたそう。ブラジルとは人口構成など違う点多いかもしれないが、農産物を給食で安定的に利用してもらえれば、農家の収入は間違いなく安定する。小金井市では令和2年の給食における地場産野菜の比率は11%だったというが、これをもっと増やしてほしい。</p>	<p>今回実施しました農業者アンケートの結果として、年間農業所得200万円未満の農業者は約80%であり、いただいたご意見のとおり、担い手を確保する上で収入の向上は重要な取組の一つと考えます。</p> <p>そのため、本計画においても、安定的・持続的な農業経営を確立し、職としての「農業」の魅力を高めるための施策として、基本施策1-2「後継者の育成支援」、基本施策3「安定した農業経営の確立」に掲げており、また、学校給食への地場産野菜の利用拡大についても基本施策4-2「食育の推進」に掲げております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の事業を検討していく際の参考とさせていただき、担い手の確保及び給食への地場産農産物の利用拡大に努めてまいります。</p>
10	基本施策4 地産地消の拡充	<p>農薬が子どもの脳に影響を与えているという研究もある。発達障害にも関係があるという。すぐには無理かもしれないが、給食に利用する食材を有機野菜などにしていってほしい。今治市やいすみ市などの取り組みを参考に実現していけば、小金井市は子育て世代にとってさらに魅力的なところになると思う。</p>	<p>地産地消を推進するにあたり、安心して食べるのできる地場産農産物を広げていくことは重要であり、本計画におきましても基本施策4-1に掲げ、「安全な農産物の生産支援」を図ることとしています。</p> <p>また、身近な消費者に安心して食べていただけるよう、農薬の使用につきましては、国や都による基準や指針等を順守するとともに、東京都のエコ農産物認証制度を取得し減農薬に取り組みされる等、日頃から各生産者において工夫や努力をしていただいているところです。</p> <p>給食食材の有機野菜化につきましては、個別の事業に係る内容となりますので、いただいたご意見を参考とさせていただきながら、安全な農産物の生産支援に努めてまいります。</p>

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
1 1	基本施策2 農地の保全・活用  基本施策5 「農」あるまちづくり	<p>農地が宅地などに変わっている様子を見かける。せつかくの農地を転用するのはもったいない。一方市民農園などの応募者は多いのに、市民農園などは限られている。農家が売却を考えている時に、小金井市が借り上げて市民農園として利用できるようならないだろうか。農地の保全になるだけでなく、市民が農業の担い手になる。是非とも実現してほしいと思う。</p>	<p>農地の売却に伴う宅地などへの転用は、相続によるものが多い状況にあります。一方、ご意見のとおり、市民農園などへの利用申込については多くのご応募をいただいております。また、平成30年に新しい生産緑地の貸借制度ができたことから、市だけではなく民間企業や団体等による市民農園の開設も可能となりました。</p> <p>そうした状況を踏まえ、本計画では、基本施策2-1「農地関連制度の周知・活用促進」において、農地としての保全につながる利活用方法の検討、市による農地の貸借及び先行取得の検討、基本施策5-1「ふれあい農業の推進」では市民農園等の整備を掲げております。</p> <p>いただいたご意見を参考とさせていただき、引き続き農地の保全・活用に努めてまいります。</p>